

# 女性会員の協会活動への参画を促進するために

副会長 香山 明美

## 女性会員の協会活動への参画を考える

作業療法士は世界的に見ても女性が多数を占める職種である。世界作業療法士連盟の統計資料によると、対象となった71カ国中、女性会員が90%以上を占める国は全体の約半数にあたる35カ国、80%以上を占める国は約7割の49カ国に及ぶ(図1)。わが国は他国に比べて男性作業療法士の割合が高く、当協会の会員は年々男性会員の比率が微増する傾向にあるが(表1)、それでも2014年度末現在、女性会員が63.7%を占めている(2014年度日本作業療法士協会会員統計資料より)。臨床や教育の現場では、男女を問わず数多くの女性が有能な作業療法士として活躍しており、重要な役割に就いて指導的な役割を担っている。

協会活動においても、現在の第5代会長は男性だが、初代から第4代会長までは女性であり、多くの役員・役職を女性が担ってきた歴史がある。2015年7月現在(その後退会した者は除く)、協会の各部・委員会等で協会活動に従事している会員661名のうち女性会員は215名(32.5%)であった。しかし会員の代表である代議員においてその男女比を見てみると、第1期の代議員(2011~2015年)197名中、女性の代議員は26名(13.2%)、第2期の代議員(2015~2019年)でも212名中、女性の代議員は30名(14.2%)と、その割合は大幅に減っている。さらに役員(理事・監事)に限って言えば、設立当初こそ8割(20名中16名=80%)が女性であったが、最初の10年間は5割程度であり、

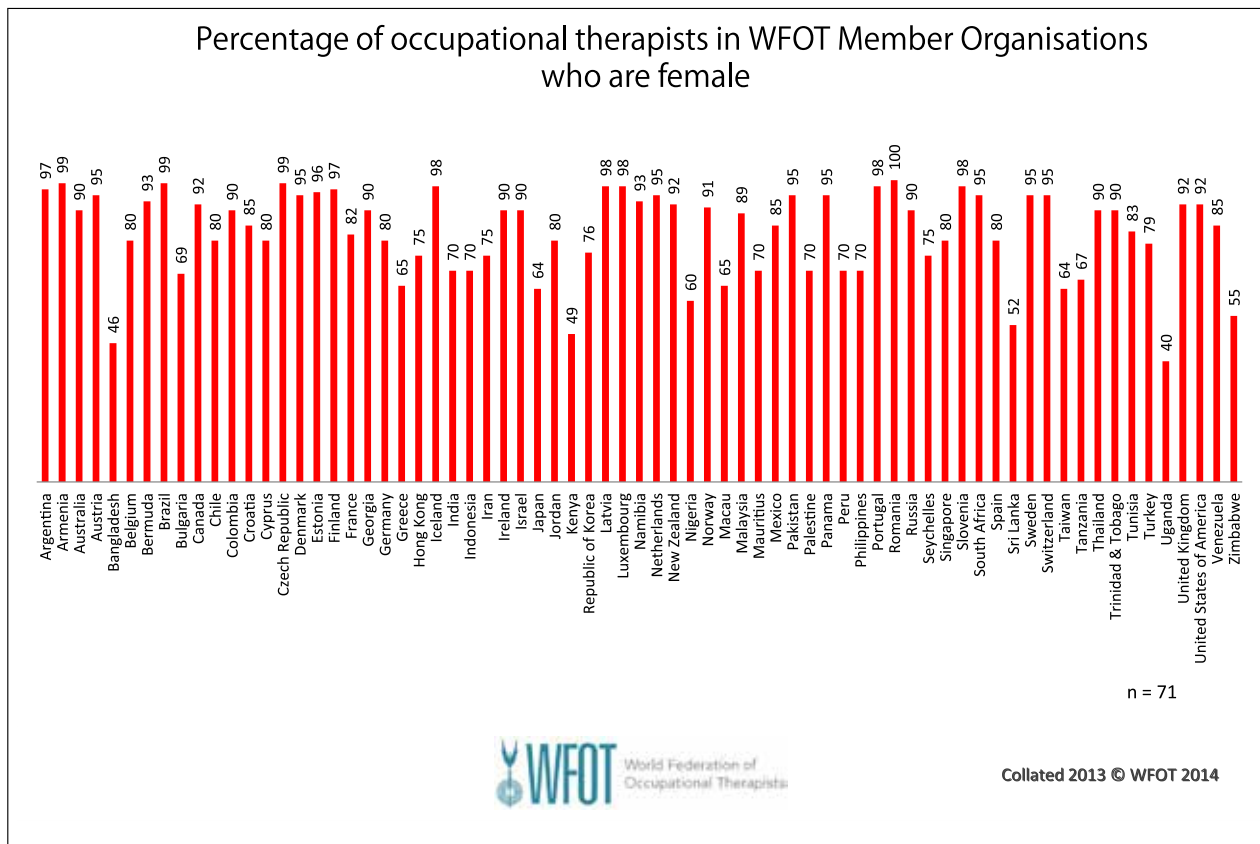


図1 WFOT加盟国における女性作業療法士の比率

表1 有資格者数と会員数（男女）の推移（1993年～2014年）

\*年度末3月31日時点での見なし組織率

年度	有資格者			会 員										組織率*
	前年度からの増加数	前年度からの増加率		男	前年度からの増加数	前年度からの増加率	女	前年度からの増加数	前年度からの増加率	男：女比	合計	前年度からの増加数	前年度からの増加率	
1993年	6,401	---	---	1,722	---	---	3,768	---	---	31 : 69	5,490	---	---	85.8%
1994年	7,028	627	---	1,833	111	---	4,186	418	---	30 : 70	6,019	529	---	85.6%
1995年	7,708	680	108%	1,963	130	117%	4,673	487	117%	30 : 70	6,636	617	117%	86.1%
1996年	8,748	1,040	153%	2,148	185	142%	5,340	667	137%	29 : 71	7,488	852	138%	85.6%
1997年	9,808	1,059	102%	2,412	264	143%	6,057	717	107%	28 : 72	8,469	981	115%	86.3%
1998年	11,035	1,226	116%	2,673	261	99%	6,897	840	117%	28 : 72	9,570	1,101	112%	86.7%
1999年	12,626	1,589	130%	3,040	367	141%	7,976	1,079	128%	28 : 72	11,016	1,446	131%	87.2%
2000年	14,880	2,254	142%	3,567	527	144%	9,494	1,518	141%	27 : 73	13,061	2,045	141%	87.8%
2001年	17,229	2,349	104%	4,134	567	108%	11,059	1,565	103%	27 : 73	15,193	2,132	104%	88.2%
2002年	19,816	2,587	110%	4,719	585	103%	12,739	1,680	107%	27 : 73	17,458	2,265	106%	88.1%
2003年	22,755	2,939	114%	5,479	760	130%	14,572	1,833	109%	27 : 73	20,051	2,593	114%	88.1%
2004年	26,069	3,314	113%	6,454	975	128%	16,697	2,125	116%	28 : 72	23,151	3,100	120%	88.8%
2005年	29,511	3,442	104%	7,445	991	102%	18,686	1,989	94%	28 : 72	26,131	2,980	96%	88.5%
2006年	33,696	4,185	122%	8,678	1,233	124%	20,854	2,168	109%	29 : 71	29,532	3,401	114%	87.6%
2007年	38,096	4,400	105%	10,088	1,410	114%	22,860	2,006	93%	31 : 69	32,948	3,416	100%	86.5%
2008年	42,355	4,259	97%	11,391	1,303	92%	24,570	1,710	85%	32 : 68	35,961	3,013	88%	84.9%
2009年	47,762	5,407	127%	12,868	1,477	113%	26,373	1,803	105%	33 : 67	39,241	3,280	109%	82.2%
2010年	53,080	5,318	98%	14,339	1,471	100%	28,009	1,636	91%	34 : 66	42,348	3,107	95%	79.8%
2011年	57,219	4,139	78%	15,618	1,279	87%	29,340	1,331	81%	35 : 65	44,958	2,610	84%	78.6%
2012年	61,856	4,637	112%	16,286	668	52%	29,806	466	35%	35 : 65	46,092	1,134	43%	74.5%
2013年	65,936	4,080	88%	17,209	923	138%	30,799	993	213%	36 : 64	48,008	1,916	169%	72.8%
2014年	70,676	4,740	116%	18,082	873	95%	31,759	960	97%	36 : 64	49,841	1,833	96%	70.5%

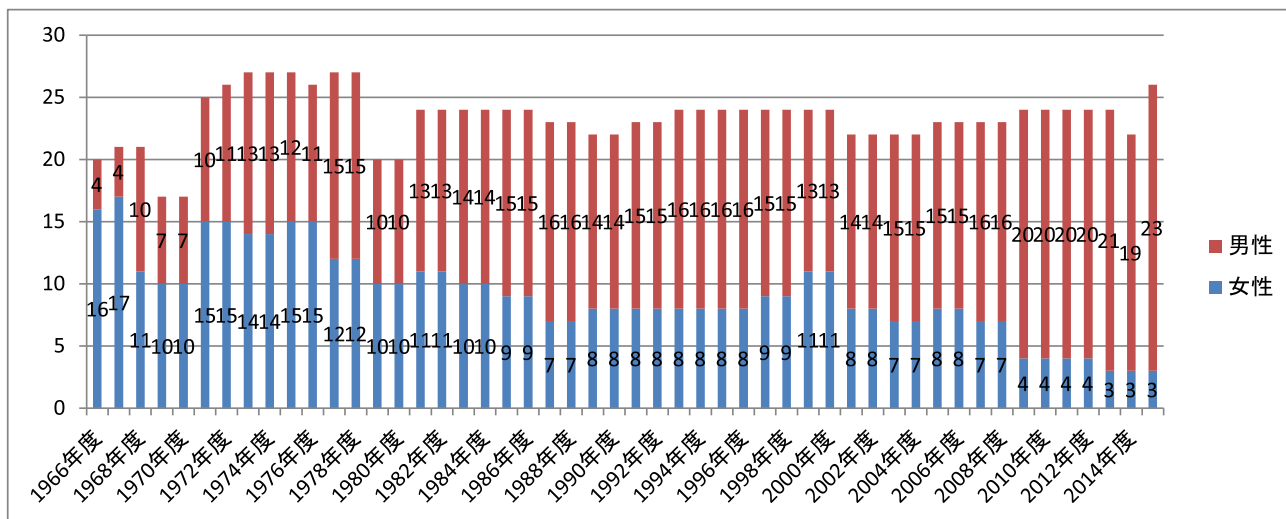


図2 歴代役員男女比の推移

その後4割、3割となり、現在では女性役員は1割（26名中3名＝11.5%）となっている（図2）。

こうした状況を踏まえて、協会は第二次作業療法5ヵ年戦略の中で、「会員の65%を占める女性会員が今まで以上に協会活動に参画できるよう、さまざまな条件整備を進めていく。その点については、特に代議員ならびに協会理事への参画を促進する必要がある」と指摘

し、「女性会員の協会活動への参画を促進する」を行動目標83番として掲げた。2015年度の企画調整委員会の事業として「女性会員の役員活動等への参加促進事業の提案」を掲げ、「平成28年度事業として、女性会員の役員等としての活躍を促進する方法（事業案）を27年度中に提案する」ことを課題としてきた。

本稿では、女性会員の参画に関する協会のこれまで

の取り組みを振り返るとともに、今年度の成果を紹介し、また今後の課題と目標、当面の活動計画をご提示する。

ここで本質的な考え方として確認しておきたいことは、男女比が問題ではないということである。臨床においても協会活動においても、問われるのは一人の人間、一人の支援者としての姿勢や能力である。しかし対象者の生活や人生に寄り添い作業療法士として支援を行う際に、対人関係の持ち方、興味関心、共感のあり方など自然に性差が出てくることは当然のことである。作業療法も組織運営も女性的な視点も男性的な視点もバランスよくあることが求められるのではないだろうか。今般の女性会員の協会活動への参加促進の取り組みも、「バランスよい組織運営が必要なのではないか」という問題意識から発したものであることをご理解いただきたい。

### これまでの主な取り組み

#### 1) 連載コラム「【窓】女性会員のためのページ」(2012年～)

機関誌『日本作業療法士協会誌』では創刊号(2012年4月発行)より連載コラム「【窓】女性会員のためのページ」を設け、今号までに断続的に42回掲載してきた。内容は、2012年度は福利厚生委員会が執筆を担当し、「女性が働くということ」を国の動き、会員動態、法制度(特に労働基準法)、ハラスメントなどの観点から解き明かした。2013年度以降は、実際に出産・育児・職場復帰を経験した会員にその体験談を執筆いただき、経験を分かち合い、助言や励ましを得る場となっている。

#### 2) 宮崎学会での女性会員向けアンケート調査(2012年)

宮崎県で開催され第46回日本作業療法学会において福利厚生委員会のアピール企画として「あなたの職場は働きやすいですか?」を開催し、「女性会員向けアンケート」を実施した。アンケートは、①女性作業療法士として働き続ける上での困難さ、②女性会員にとって必要と思われる支援について尋ねるもので、結果の詳細は本誌第6号(2012年9月発行、p.14-15)をご覧ください。ただ、①では育休・産休の取りにくさ、就労時間の長さ、母性への理解の不足などが上位を占め、②では休会規程や学会・研修会における託児所の設置を求める声が多く聞かれた。

#### 3) 休会制度の創設(2013年)

上記のアンケート結果にも表れていたように休会制度への要望が強くなり、また一時的に任意退会する会員の退会理由の多くが「出産・育児」である現状を踏

まえ、協会理事会は平成25年度定時社員総会において「正会員の休会に関する規程」を提案し、承認を得るに至った。これにより当協会にも休会制度が創設され、その後一部改正を経て順調に運用が行われている。2014年度には224名、2015年度には前年度からの延長申請を行った103名を含む401名がこの制度を利用して休会している。

#### 4) 「復職への不安軽減研修会」の開催(2013年・2014年)

協会は福利厚生委員会の企画・運営により、2013年9月(東京)と2014年9月(大阪)の2回、休職中の女性会員の悩みや今後の課題を確認する場として「復職への不安軽減研修会」を実施した。残念ながら、いずれも参加者は10名以下の少人数にとどまったが、参加者にとっては悩みや課題を共有し、安心感を得られる良い機会となったと思われる。参加者が少なかった理由としては、このような研修を必要としていても、そのような会員こそ家事や育児等に追われ遠隔地に出かけることが難しい事情があるということが考えられた。今後は、会員にとってより身近な地域で研修や相談ができる体制の整備が必要となろう。

#### 5) 女性会員の協会活動参画促進に関する都道府県士会アンケート調査(2014年)

冒頭でも触れた第二次作業療法5ヵ年戦略の行動目標83番「女性会員の協会活動への参画を促進する」を受けて、協会の企画調整委員会は2014年7月に、都道府県士会役員を対象にアンケート調査を実施し、女性会員の士会活動への参加状況、協会活動参画に関する士会役員の考えを伺った。結果の詳細については本誌第39号(2015年6月発行、p.17-27)をご覧ください。様々な考え方があり、一定の傾向は示されなかったが、「女性が参画しにくい事情についての認識はあるが、それに対する取り組みはなされないまま、男女比ではなく適材適所との考えややれる人がやればよいなどの考えから現状に留まっている」一方、男女比のバランスに配慮してそれに意識的に取り組んでいる士会もあることがわかった。このアンケートを受けて協会理事会は、次項に示す検討会を設置し、女性会員の協会活動参画を促進するための方策を検討してゆくこととなった。

#### 6) 女性会員の協会活動参画を促進するための方策検討会(2015年)

荻原副会長、宇田常務理事、長谷川福利厚生委員長、小賀野企画調整委員長、筆者(香山)を構成員として、2015年の8月と10月の2回、女性会員の協会活動参画を促進するための方策検討会を開催した。第1回の方

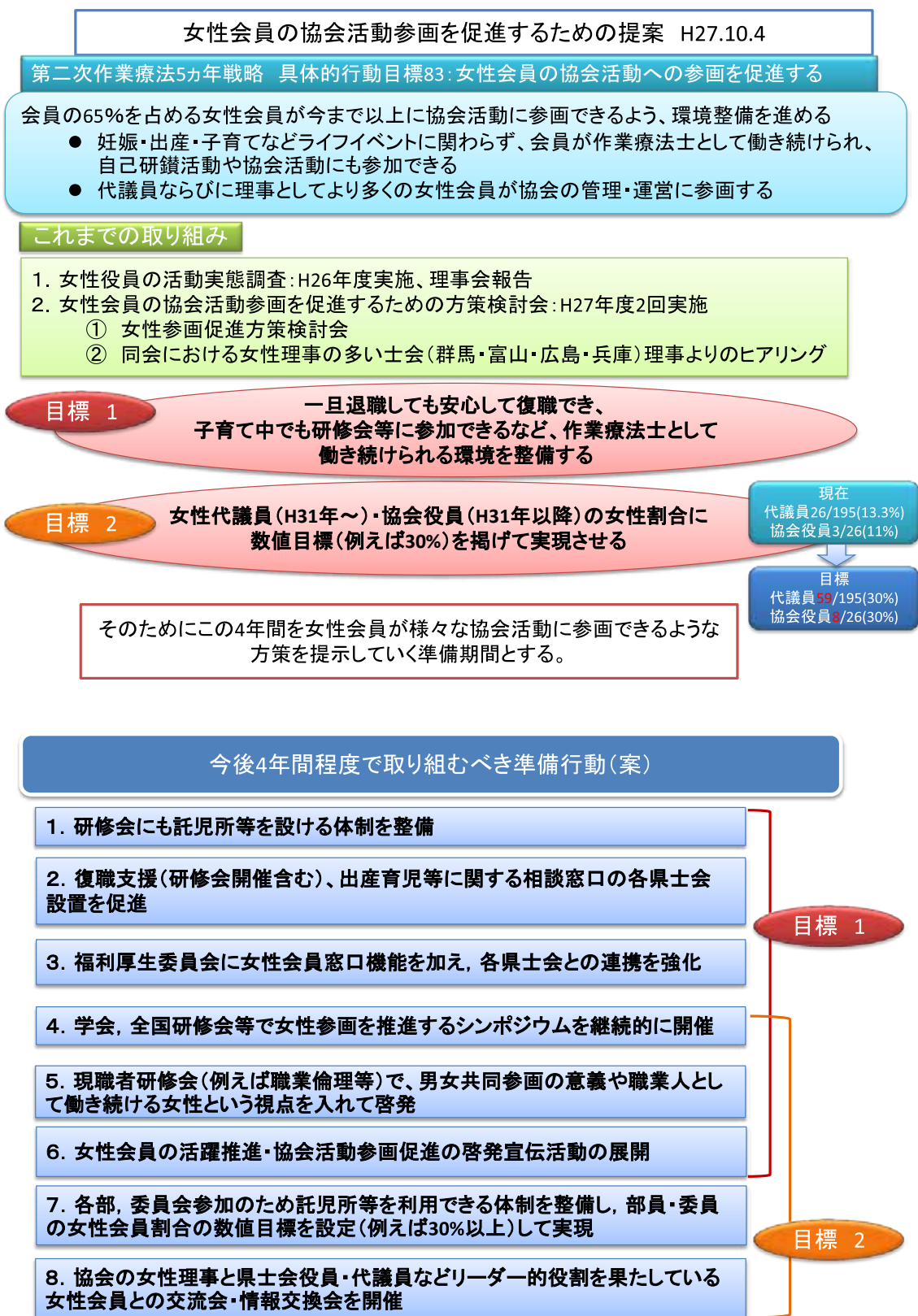


図3 女性会員の協会活動参画を促進するための提案  
(準備行動(案)の解説を含む提案資料の全体は協会ホームページに掲載)

表2 「女性会員の協会活動参画を促進するための事業」平成28年度事業計画案

1. 「女性会員の協会活動参画を促進するための事業」についての啓発宣伝活動
  - ①機関誌『日本作業療法士協会誌』で特集を組む。
  - ②協会ホームページに専用コーナーを設置する。
2. 学会・研修会での託児所設置に関する検討
  - ①教育部・学術部で設置の検討（現状把握と常時設置のための検討）を行う。
  - ②設置する際の具体的な方法について情報収集を行い、ルールを検討する。
3. 福利厚生委員会に女性会員相談窓口を設置（協会ホームページに明示）
  - ①相談窓口の機能の明確にする。
  - ②相談と対応のルールを明確にする。
4. 女性会員の協会活動参画を促進するためのシンポジウムを学会時に開催
  - ①第50回日本作業療法学会（札幌）にて初回シンポジウムを開催する。
  - ②会員が協会活動への理解を深め、会員相互の交流を深める場とする。
5. 各部・委員会における女性の部員・委員の割合を増やしていく方策の検討と提案
6. 代議員・協会役員の女性割合の提示の仕方を検討
  - ①平成31年実施に向けてのタイムスケジュールや方法も含めて検討する。

策検討会では、上述のようなこれまでの経緯と現状の確認を行い、士会や協会の活動に女性会員が参画するための支援策について、その様々な可能性や課題について検討を行った。第2回の方策検討会では、上記の都道府県士会アンケート調査によって明らかになった、女性役員が50%以上を占める群馬・富山・兵庫・広島 の4士会の女性役員を招いて話を伺い、基本的な考え方から現場の実態、具体的な工夫や助言に至るまで様々な有益な情報交換・意見交換を行うことができた。また、それを踏まえて「女性会員の協会活動参画を促進するための提案」の草案について検討を行った。

#### 女性会員の協会活動参画を促進するための提案

今年度2回にわたって行われた上記の方策検討会の結果を踏まえて「女性会員の協会活動参画を促進するための提案」(図3)が起草され、平成27年度第7回理事会(2015年11月21日)で承認を受けた。また、第8回理事会(12月19日)では、この提案を実現するための担当部署を事務局・福利厚生委員会とし、担当理事を宇田薫常務理事と筆者(香山)とすることが決定した。

この提案では目標が2つ設定されているが、これは2つの目標を同時に並列的に目指していくということではなく、むしろ2段階的に取り組んでいくことを示し

ている。すなわち、最終的に目指されているのは目標2の「女性代議員(H31年～)・協会役員(H31年以降)の女性割合に数値目標(例えば30%)を掲げて実現させる」ことである。しかし代議員や協会役員の数は一朝一夕に増えるものではないし、小手先の操作で何とかかなるようなことでもない。仮に増える兆しが見られたとしても、長く続かないのでは意味がない。目標2を達成するためには、その前提として、男女を問わず会員の意識を変え、協会全体の底上げを図る地道な努力を積み重ねることがどうしても必要である。そこで、最初に取り組むべきこととして、目標1の「一旦退職しても安心して復職でき、子育て中でも研修会等に参加できるなど、作業療法士として働き続けられる環境を整備する」ことが掲げられたのである。

2019年(平成31年)以降に具体的な成果が得られるようにするために、まずはその環境を整備することが肝要であるとの認識から、今後4年間(2015年～2018年)を準備期間と位置づけ、様々な準備行動を開始していくこととなった。

協会は平成27年度第8回理事会(2016年1月23日)にて「女性会員の協会活動参画を促進するための事業」平成28年度事業計画案(表2)について協議し、大枠この線で事業を実施していくこととなる。

# リハMAPで一緒に活動しませんか？

## リハビリママ＆パパの会のご紹介

東芝病院 市川 真理子

「リハMAP」が「PTママの会」から名称を変更したのは、まだ去年のことである。私はPTママの時代だったときに躊躇せず、入会した。きっかけは、たまたまネットでブログを見つけたことだった。当時から作業療法士も言語聴覚士も受け入れていたが、やはり名前からして敷居は高かったのではないだろうか。私の妊娠出産当時にはマタハラなどという言葉はまだなかった。だが、明らかにマタハラな行為は受けた。私が産休・育休を取ったときも同僚が取ったときもいずれも人員の補充はなく、他の職員たちの負担が増していた。独身女性にとっては、常に負担をかけられるだけ。不公平感が強い。



将来の年金負担するのは子どもたちだから、という理屈があるが、日々の生活からはかけ離れている。また、この職業を続けていくからには知識技術の研鑽が欠かせない。しかし、勉強会や研修に出ようにも、夜間や休日には保育園は通常閉まっており、託児先を見つけるのは困難である。幸い、協力者がいたとしても、平日の日中、預けっぱなしの子どもを更に預けるのは抵抗感がある。私は量的に少ない、一緒に過ごす時間を大切にしたい。学会は保育付きだったので、ありがたかった。日本では研修の類はほとんど平日の夜か週末に開催されている。英国作業療法士協会の研修一覧を見ると、平日の日中にも企画されている。平日の研修に参加することが許されるというのは、男女ともに働きやすい環境だと思う。共生社会の実現を目指し、一緒に活動しませんか。

### ●リハMAP 基本精神

- 1) 私たちリハビリママ＆パパ自身がリハビリママ＆パパであることを誇りに思い、それを楽しむこと。
- 2) リハビリママ＆パパ自身で働きやすい環境を模索・提案し、協力が得られるように働きかけ、子どもがいるいないに関わらず皆さんにとってより良い環境を作り出していくこと。

### ●活動内容

年2回の託児付研修会、メルマガ・ブログでの情報発信、会員同士の交流、アンケート調査による学会発表など

### ●活動方針

職業柄、男女が平等に働きやすいリハビリ専門職だからこそ。リハビリ専門職として働き続けたいと思う皆さんが各ライフイベントを経験しながら、それを自分たち自身の糧として現場で活かし、其々の形で働き続けることが出来るように活動していきたいと思っています。

### ●事務局・連絡先

リハビリママ＆パパの会 代表 河合麻美  
事務局 市川保子  
特別養護老人ホーム 松葉園  
〒270-0237 千葉県野田市中里43-3  
HP: <http://ptmama2008.jimdo.com/>  
E-mail: [ptmama2008@gmail.com](mailto:ptmama2008@gmail.com)